

すず

齒音にして單子音の一つ。

すの濁音。

僅に水面に現はれたる陸地。

食品に加味して用ふる酸味の汁。

鳥獸虫魚などの住む家。

純粹なる事。●飾なき事。●單一なる事。

○「すはだ」「すじはり」「すよみ」

竹又は葭などを編み列れたるもの。

すだれ。●みす。

四段およびう變ナ變の動詞の下に置く

詞。「一」しむる。○「人に讀ます」「二」敬語

に用ふ。○「行かせ給ふ」

爲す。●行ふ。●働く。

とすの略。○「あらんすらん」「行かうするに

て候」

打消の詞。○「見す」「思はす」

き。○「純粋」。「二」すぐれたるもの。「三」い

き。○「すぬな話」(俗)

動物の骨の中にある柔らかきもの。

ずぬい 隨意(名)

ずぬい 隨一(名)

ずぬろ 水路(名)

ずぬは 水波(名)

ずぬはん 水飯(名)

ずぬにち 衰日(名)

ずぬへい 思むべき日。

ずぬへう 水泡(名)

ずぬへい 水兵(名)

ずぬへい 水平(名)

ずぬへん 水邊(名)

ずぬたう 出納(名)

ずぬたう 水道(名)

ずぬたう 水利(名)

ずぬり 運輸上又灌漑上の水の便利。

ずぬり 水量(名)

ずぬり 水量(名)

ずぬり 推量(名)

ずぬり 推量(名)

ずぬり 推量(名)

ずぬり 推量(名)

きまい。●心まかせ。●自由。

其中の第一。

水上の路程。●海路。●船路。

水と波と。

水漬の飯。

陰陽道の詞。人の生れ性によりて

思むべき日。

水の泡。

海軍の兵卒。

水面と一線を爲したる平らかさ。

△(形)——水平なる。(副)——水平に。

水の近邊。

金銀の出し入れ。

「一」水を通す道。●掘割。●運河。

「二」飲用水を引く道。●上水。

水の分量。●水の多少。

推し量る事。●推察。●推測。

△(動)——推量す。

すいかきに同じ。

遠垣(名)

水害(名)

出水の災害。

ずぬ 髓(名)

ずぬ 粹(名)

ずぬ (助動特狀)

ずぬ (自動サ變)

ずぬ (他動サ變)

すぬ (助動下二段)

すぬ 簾(名)

すぬ 簾(名)

すぬ 素(名)

すぬ 巢(名)

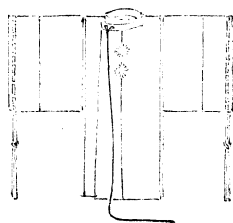
すぬ 醃(名)

すぬ 洲(名)

すぬ ず

すひいかづら
すゐかん

吸葛(名) 草の名。忍冬の古名。(和名掛)
水干(名) 裝束の
名。仕立は狩衣
と同じく菊綴あ
り紐あり。色は
水色、朽葉等一
定せず。多くは
白を用ふ。もこ
は鍔下に着たるもの。(圖)



すゐかん
すいがき

水旱(名) 洪水と旱魃と。
透垣(名) 向の見透くやうに作れる垣根。四
目垣などの類。

すいえう

水嚙(名) 一週の第四日目。

すひいたし

吸出(名) 膏藥の一種。毒氣を吸ひ出すもの。

すゐれん

水練(名) 泳ぐ方法。●およぎ。●水泳。●
游泳術。

すゐそ

水素(名) 化學上原素の一つ。氣體にして原素
中最も輕きもの。

すゐさう

水晶(名) すゐしやうに同じ。(雅)

すゐさう

水葬(名) 死體を水の中に投げ入れて葬むる
事。

すゐさう

瑞相(名) 「一」めでたきしるし。●吉兆。「二」
めでたき人相。

すゐぞく

推測(名) 推し測る事。●推量。●推察。△
(動)―推測す。

すゐぞく

水族(名) 水中に住む動物の總名。

すひいつ

吸筒(名) 水、酒などを入れて携ふる具。竹の
筒などにて作れるもの。

すゐなん

水難(名) 水にての災難。洪水難の類。

すゐらい

水雷(名) 爆烈藥の力を以て敵艦を破壊する
もの。其水底に沈め置くものを布設水雷と
いひ。軍艦より發射するものを魚形水雷と
いふ。

すゐうん

瑞雲(名) めでたきしるしの雲。

すゐなう

水邊(名) 蹄の一種。馬の尾を編みたる布に
て張りたるもの。

すひいくち

吸口(名) 「一」煙管の口にて吸ふところ。
「二」吸物に入る、柚子、落葉の類。

すゐく

西瓜(名) 瓜の一種。其實丸くして肉赤く夏秋
の頃切りて食するもの。水分多くして味甘
し。

すゐげん

瑞驗(名) めでたきしるし。●吉兆。

すゐふ

水夫(名) ふなのり。●かこ。●舟子。

すゐふ

炊夫。炊婦(名) めしたき。●おさん又は權助。

すゐふろ

水風呂(名) すゐふろの轉。

すゐぶん

水分(名) みづけ。

すゐぶん

随分(副) 相應に。●かなりに。●まづ。

すひいこむ

吸込(他動四段) 吸ひ入る。●吸入する。●

吸收する。

すゐえい

垂纒(名) 纒の一種。縫腋の袍を着る時に用

ふる冠の纒。後ろに垂れたるもの。……卷纒に對しての稱。

すゐでん

水田(名) 陸田に對して普通の田をいふ。●

田地。

すゐさい

水災(名) 洪水の災害。

すゐさいぐわ

水彩畫(名) 水繪具にてかきたる繪。

すゐさつ

推察(名) おしはかり察する事。△(動)―推察す。

すゐさん

推參(名) 「一」推して參る事。參上の意。「二」

失禮千萬の意。

すゐき

水氣(名) 「一」水烟。「二」水分。「三」水腫。

すゐき

(名) いもがら。

すゐき

隨喜(名) 歡喜して信仰する事。(佛教)

すゐぎょ

水魚(名) 水と魚との如く中のよき事。

すゐきやきう

醉狂(名) 「一」酒に酔ひて狂ふ事。●酒

すゐぎん

狂。「二」轉じて。ものすき。

すゐぎん

水銀(名) 礦物の名。液體にして其色銀の如

すゐぎん

きもの。●みづかれ。

すゐぎん

水牛(名) 「一」獸の名。牛に似て大なるも

の。熱地に産す。「二」水牛の角。印判其他

すゐめん

睡眠(名) すゐみに同じ。(謡曲)

すゐめん

睡眠(名) れむり。△(動)―睡眠す。

すゐめん

火晶(名) 「一」礦物の名。石英を磨きて

すゐめん

無色透明ならしめたるもの。「二」水晶にて

すゐめん

作れる數珠。○榮花「水晶の玉ばかりの

すゐめん

涙」

すゐめん

水神(名) 水を司る神。

すゐめん

隨身(名) 太上天皇および高官の人の外出の

すゐめん

時之を護衛するため朝廷より賜はる武官。

すゐめん

閼腋の袍に老懸の冠を着し太刀を佩び矢を

すゐめん

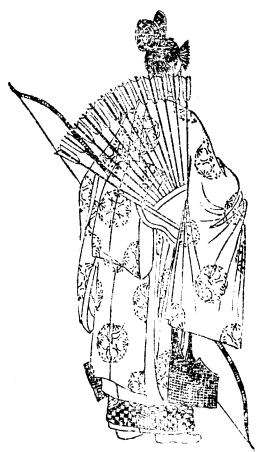
負ひ弓を持つ。(圖)

すゐめん

隨身門(名) 隨身の像を左右に置きたる

すゐめん

神社の門。



するじゅく

衰弱(名)

衰へ弱る事。●疲勞。△(動)―衰

弱す。

するじゅく

垂跡(名)

佛が衆生濟度のため假に姿を神と

現はし此日本に跡を垂るゝの意。之に對し

て其體たる佛を本地さいふ。佛家にて云ふ

詞。

するしゅ

水手(名)

かこ。●舟子。●水夫。

するしゅ

水腫(名)

病の名。全身に水氣を持つもの。

するしゅ

水筆(名)

筆の一種。心のなきもの。

するしゅ

隨筆(名)

筆に任せて記したる記錄。●雜錄。

●漫筆。

するもん

水門(名)

樋の口。

すひもの

吸物(名)

料理の名。酒の肴に出だす魚類な

ごの汁。●あつもの。

するせい

彗星(名)

はうきばし。

するせい

水星(名)

遊星の名。太陽に最も近きもの。

するせん

水仙(名)

水草の名。葉は葱に似て平たく冬

の頃白色六瓣にして葉の黄色なる花咲くもの。

するせん

水織。碎蟾(名)

菓子の名。葛の粉を煉り砂糖

を加へて薄く延ばし短冊の如くに切りたる

もの。◎黄白の二色交りたる故に水仙の花

に似たざりて名づく。

するす

推(自動サ變)

推察する。

するろ

棕櫚(名)

木の名。||しゅるに同じ。○夫木「朝

まだき梢ばかりに音たてゝするの葉さぐる

村時雨かなし

するばん

算盤(名)

そろばんの轉。(今昔)

するばん

昂(名)

星の名。數の星の一處に集まりて見ゆ

るもの。

するばる

(自動四段)

続へ括られてある。●すばまる。

すばた

素肌(名)

まるはだか。

すばなる

(自動下二段)

離るに同じ。(源氏)

すばなし

素話(名)

茶菓子などなしに只話ばかりする

事。●からばなし。

すばら

素腹(名) 子を持つ腹。○梨花「素腹の后」

すばく

寸白(名) 病の名。女の疝氣。

すばやし

(形。形状言ク活) 早し。●敏し。

すばしり

洲産(名) 魚の名。いなの小ききもの。

すはん

素本(名) 調點註釋などの無き本。本文のみ

書物。

すほん

數本(名) 多くの本。

すぼむ

(自動四段) 末程漸々細くなる。●漸々狭くな

る。●すぼまる。●つぼむ。

すぼむ

(他動下二段) すぼます。●すぼましむる。

すぼふり

修法(名) 佛教にて執行する惡魔調伏などの

祈禱。

すぼまる

(自動四段) すぼむに同じ。

すぼし

(形。形状言ク活) 「一」狭し。●すぼまりて居

る。「二」みずほらし。(方丈記)

すべ

皇(名) すめに同じ。

すべ

術(名) 爲すべき方法。●手段。●仕方。

すべろぎ

皇(名) すめるぎに同じ。

すべる

(自動四段) 「一」滑らかに走る。●つるつるど

走る。●油などの上を歩くやうになる。「二」

すわりたるまゝ身を移す。●にじりよる。

●にじりでる。●いつのまにか其場を

去る。○枕「かけながらすべりよりて聞く

なりもあり」源氏「物笑に堪へればすべり

出で、なん慰めける」○「三」帝位を去る。

須(副) べしの助動詞を置く前に用ふる

詞。○大鏡「すべからくは次第のまゝに一

の皇子かなん春の宮さすべけれど」

皇神(名) すめかみに同じ。

(形。形状言ク活) せんかたなし。●しかたな

し。

皇(名) すめらに同じ。

なめらかに同じ。(形)すべらかなる。(副)

すべらかに。

(名) 婦人の髪の名。一つに結びて後ろへ

下げ置くもの。古へ貴女のせし髪。

(他動四段) すべらしむる。●すべる様に

する。

皇(名) すめきに同じ。

皇座(名) すめむつに同じ。

總(副) 總じて。●總體に。●全體。●殘らず。

すべ

すべ

すべ

●皆々。

すべす

(他動四段)

すべらす。●そつと脱ぎ捨つる。

○源氏「御衣をすべしおきてゐさりのき給ふに」

すど

簀戸(名)

簀のやうに編みたる垣の戸。○夫木「山賤のすどの竹垣枝もせに夕顔なれりすがひく」に」

すどり

洲鳥(名)

洲に居る鳥。

すぢ

筈(名)

「一」綽。「二」織維。「三」血統。「四」其役を取り扱ふ官廳。「五」道理。「六」趣向。●意匠。●仕組。

すぢ

術(名)

じつに同じ。(雅)

すぢかひ

筋違(名)

すぢかふ事。●交叉する事。●斜。

すぢかふ

筋違(自動四段)

斜に行き違ふ。●斜に向く。

すぢかき

筋書(名)

芝居などの仕組を説明したるもの。

すぢりもぢる

(他動四段)

身をねぢる。●もぢる。○宇治「舞ふべき限りすぢりもちりない聲を出だして一座を走り廻り舞ふ」

すぢる

(自動四段)(他動四段)

筋の如くふる。●身をねぢる。●もぢる。(宇治)

すぢなし

(形。形状言ク活)

すべなしに同じ。(雅)

すぢむかひ

筋向(名)

斜に向ひ合ふ事。

すぢめ

筋目(名)

「一」血統。「二」筋道。

すぢみち

筋道(名)

物事の道理。●條理。●理。

すり

搦兒(名)

摩れ違ひ様に懷中物など掠め取る事。又は其人。●巾着切。

すり

簾(名)

竹にて編みたる器。旅行の時衣類など入るもの。

すり

修理(名)

しゅりに同じ。

すりいも

摺蓐(名)

料理の詞。山の芋を搗鉢にてすりおろしたるもの。

すりばち

搗鉢(名)

食品を摺り碎く器。陶製の鉢にして内部一面に細き目を刻みたるもの。

すりばかま

摺袴(名)

青摺にしたる袴。青摺の衣の時に用ふるもの。

すりほん

摺本(名)

板にて摺りたる書物。●版本。●印本。

すりぬひ

摺縫(名)

摺り模様と縫ひ模様と。

すりかりぎぬ

摺狩衣(名)

本草の花など摺りたる狩衣。

すりかね

摺鉦(名)

内面の凹處を磨り鳴らすやうに作

れる鉦。

すりやリヨウ

受領(名) じやりやうに同じ。(雅)

すりつつみ

摺鼓(名) 舞樂の器。左手に抱き右手にて

摩り鳴らす鼓。

すりつけぎ

摺附木(名) まつち。●早附木。

すりうす

磴(名) ひきうすに同じ。

すりまき

摺巻(名) 摺木に同じ。

すりこ

摺粉(名) 穀物を摺りたる粉。(更科)

すりごろも

摺衣(名) (一)古へ草花などを摺り付けて

裝飾せし衣。(二)後世は白地に藍の形を置

きたる衣。……青摺を見よ。

すりこばち

摺粉鉢(名) 摺鉢の古名。(和名抄)

すりこむ

摺込(自動四段) 強く摩擦して其物を入り込

まする。

すりこぎ

搦木(名) 搦鉢にて物を摺るに用ふる棒。●

連木。

すりゑ

摺餌(名) 小鳥の餌の一種。魚類と菜と摺り合

はせたるもの。

すりゑ

摺繪(名) 摺りて顯はしたる衣の繪模様。上古

は草木の花葉など摺り附けて模様さしたる

を後には模様をあてゝ染料を摺り込むも

すりあし

摺足(名) 地を摺り歩く足付。

すりきず

摺疵(名) こすれて皮の破れたる疵。●すり

むき。

すりめ

摺目(名) 摺衣の摺りたる模様の跡。

すりし

摺師(名) 摺箔を業とする人。

すりしき

修理職(名) しりしきに同じ。(源氏)

すりもの

摺物(名) 版木又は活版にて摺りたるもの。

すりかたぎ

摺形木(名) 版木。

する

摺(他動四段) (一)こする。●撫でる。●摩擦す

る。(二)磨く。(三)搦鉢石臼または大根お

ろしなどにて物を粉にする。(四)版木又は

活版に紙を當てゝ其文字又は畫を寫し取

る。●印刷する。(五)木草の花葉などに衣

を當てゝ其色を寫し取る。……後世は之に

擬して形を置くにも摺るの詞を用ふ。(六)

墨を硯に當てゝ黒き色を出す。(七)摩れ違

ひ様に人の物を掠めさる。●掏兒を行ふ。

するどし

鋭(形。形狀言ク活) 刀などのよく切る。●

銳利である。

するり

(副) よき刀など抜き放つ有様。(又)―するり

こ。

するがまひ

駿河舞(名) 東遊中の一曲。

するめ

錫(名) 食品の名。鳥賊の乾したるもの。

するめいか

錫鳥賊(名) 鳥賊の一種。錫に製するもの。

するする

(副) 速に進む有様。●すんく。●すらすら。(又)―するくこ。○著聞「そばより

するくこよりて」

するすみ

(名) 一物も貯へ持たぬ身。●單獨の身。(徒

然)

すは

蘇枋。蘇芳(名) 「一」木の名。之を削りて染草に

用ふるもの。「二」染色の名。蘇芳を削りて

煎じ出だしたる色。薄紅。

すは

素袍(名) 武家にて侍の禮服。仕立は直垂に同

じく上下同色同品の布にて作り胸に革紐を

付け袴は長袴に

て現今の襦高袴

の如き腰を付け

たるもの。模様

は種々にて一定

せず。殊に家の

定紋を大きく付



すあ

素襖(名) 素袍に同じ。

すは

侍鳥帽子の一名。

すば

(感)

物事に對して俄にそりそ氣の付く時の

聲。○謡曲「すは敵陣は亂れ合ひて」同「す

はすは動くぞ祈れた」

すわり

座(名)

「一」すわりやう。●すわりかた。「二」

同邊の病體。「三」すわり餅。

すわりもち

座餅(名)

おそなへ。●鏡餅。

すわりすま

座相撲(名)

遊戲の名。座りたる儘に

て取る相撲。

すわる

座(自動四段)

「一」座する。●居る。「二」物が

一處に居着きて動かぬ。

すば

魚條(名)

食品の名。魚の肉を割きて乾した

るもの。(和名抄)

すば

身の長高き有様。●すばりとしたる有様。

(形)―すばやかなる。(副)―すばやかに。

すは

洲濱(名)

「一」水に圍まれた

る洲の如く出で入りの多

き形。(圖、一)「二」右に

いへる形に作りたる臺。



古へ人の前に出だす作り物などに用ひたるもの。(三)轉じては入り込みの一つ或は三つある丸形の模様。(圖二、三)



すはッまた

洲濱形(名) 洲濱の「二」

〔三〕に同じ。

すはッえ

(名)

眞直に長く生えたる萩。●枝。

すはッえ

(名)

すはえに同じ。

すが

菅(名)

すげに同じ。

すがひ

酢貝(名)

料理の調。貝の肉を生にて酢に浸したるもの。

すがい

(名)

絹糸の一種。少しも練らぬもの。

すがり

(名)

雪國にて道行く人の足に履くもの。(圖)

すがり

(名)

雪國にて道行く人の足に履くもの。(圖)

すがり

(名)

雪國にて道行く人の足に履くもの。(圖)

すがり

(名)

雪國にて道行く人の足に履くもの。(圖)

すがり

(名)

雪國にて道行く人の足に履くもの。(圖)

すがり

(名)

雪國にて道行く人の足に履くもの。(圖)

すがり

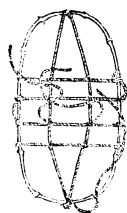
(名)

雪國にて道行く人の足に履くもの。(圖)

すがり

(名)

雪國にて道行く人の足に履くもの。(圖)



すがる

の花に戯れて露を吸ふ蜂蟬の類の總名。
〔三〕鹿の異名。取り付く。●たよりにする。●よりかいる。

すがほ

素顔(名)

化粧せぬ顔。

すがは

菅原(名)

菅の生ひたる野原。

すがが

(他動四段)

菅搔をする。

すがが

菅搔(名)

すげがさに同じ。

すがが

和琴の弾き方の名。

すがた

姿(名)

「一」かたち。●なり。「二」ふうつき。●様子。●模様。●有様。

すがね

素鐵(名)

鋼に對して通常の鐵。●地鐵。(形。形狀言ク活)

すがな

(副)

すげなしに同じ。〔雅〕

すがら

終るまで。●通じて。○「夜もすがら」道

すがら

すがる(又)―すがらに。○萬葉 晝はすがらに

すがむ

眇(自動四段)

眇である。

すがむ

菅村(名)

「一」菅の生ひ茂りたる處。「二」風俗歌の曲名。

すがむ

次(自動四段)

次ぐ。●追ひ付く。●ならぶ。

すがむ

(雅)

次(自動四段)

すがむ

俗歌の曲名。

すがむ

次(自動四段)

次ぐ。●追ひ付く。●ならぶ。

すがむ

(雅)

次(自動四段)

すがのね

菅根の(枕)

「一」長し亂る絶ゆるなどの枕

詞。菅の根は長く多く入り亂れて引き抜く時絶えやすきものなれば云ふ。(二)れもこの枕詞。れの音を重れて云ふ。

巢掛(自動四段)

蜘蛛の巢をかくる。

すがぐ

すがぐとしたる有様。(形)―すがやになる。(副)―すがやかに。

すがごも

菅薦(名)

薦の一種。菅にて編みたるもの。

すがき

簀垣(名)

簀の如く編みたる竹垣。

すがめ

眇(名) 片方のつぶれたる目。●めづかし。

すかす

透(他動四段)

透く様にする。

すがす

嘘(他動四段)

だます。

すがすが

(副)

氣がせいへき。●さつぱりき。●すらくき。●手輕に。●尻輕に。

すがすがし

清々(形。形狀言シク活)

「一」清淨なる有様。

すだち

巢立(名)

巢立つ事。△(動)―巢立す。

すだち

廢(自動四段又下二段)

棄てらるる。●衰ふる。

すだち

●不用になる。●通行らぬやうになる。

すだれ

簾(名)

竹、藁の類を編み列れたるもの。

すだれ

簾千鳥(名)

模様の名。瘦せたる一種の

すだれ

すそつけのころも

襦袢(名)

直衣の一名。(和名抄)

すだれふ

簾麩(名)

食品の名。麩にて壓し付けたる形のある麩。

すだれびきょうぶ

簾屏風(名)

屏風の一種。簾にて造りたるもの。

すだつ

巢立(自動四段)

鳥の雛の成長して巢を立ち出づる。

すだつ

巢立(他動下二段)

巢立たしむる。

すだく

(自動四段)

集まる。

すだま

(名)

「一」山林の靈。●精。「二」恨などにて生ずる生きたる人の靈。●生靈。

すだすだ

(副)

すた／＼に同じ。(又)―すた／＼に。

すたすたに

(副)

切／＼に。

すそ

裾。裾。襦(名)

「一」衣服の下の部分。「二」総べて物の下または末の部分。

すそ

呪咀(名)

「一」まじなひ。「二」のろひ。

すそ

呪咀(名)

すそに同じ。

すそわ

裾回(名)

山の裾のあたり。●麓。(雅)

すそわけ

裾分(名)

甲より贈られたる物の部分を分け

すそつけ

て乙に贈る事。●福分。

すそつけのころも

襦袢(名)

直衣の一名。(和名抄)



すそつき

襦(名) 袍、直衣などのらん。

すそり

殊勝(名) しゆしやうに同じ。△(形)―すそり

なる。(副)―すそりに。(雅)

すそろ

從僧(名) 住持に仕ふる僧。●供をする僧。(雅)

すその

裾野(名) 山の裾にある野原。

すそこ

裾濃(名) 衣服の上の方を薄くして下の方程段々に薄く染むる事。○「紫裾濃の御着長」

すそもやう

裾襖様(名) 衣服の裾の部分に付けたる模様。其衣服。

すつ

捨棄(他動下二段) 入らぬものとして投げやる。

●ほふりだす。●手を放す。●見放す。

すっぽん

泥龜(名) 魚の類。口の尖りて龜よりは甲の滑らかなるもの。其肉は滋養に富みて食用となる。

となる。

すつくる

巢作(自動四段) 巢を作る。

すつけ

酢漬(名) 食品を酢に漬くる事。又は漬けたるもの。

もの。

すね

髓(名) すね。(和名抄)

すね

臚(名) はぎ。

すねあて

臚當(名) 武具の名。臚を被

ひ固むるもの。(圖一、二)



すな

砂(名) 石の極めて細かきもの。

すな

いさご。●真砂。

すな

少辨(名) せうべ

すな

少納言(名) せうなごん。(和名抄)

すな

砂場(名) 砂の多き場所。

すな

漁(名) いさり。●漁獵。●れふ。

すな

漁(他動四段) 魚貝など捕る。●いさる。●れふをする。●漁する。

すな

すな

質素。●質樸。△(形)―すなはなる。(副)―すなはに。○古今序「千早振神代には歌の文字も定まらずすなはにして事の心わきがたかりけらし」(二)正直。●真直。

すな

△(形)―すなはなる。○新後拾遺「身を祈る人よりも猶男山すなはなるをぞ守るとは聞く」(副)―すなはに。(三)柔順。●穩順。

△(形)―すなはなる。(副)―すなはに。即。則(副) 「(一)即座に。●すぐに。●やがて。(二)そこで。●其時。

すな

砂原(名) 砂の多き原。●砂漠。

すな

砂煙(名) 風又は馬の蹄の爲めに砂の煙の

すな

風又は馬の蹄の爲めに砂の煙の

すな

風又は馬の蹄の爲めに砂の煙の

すな

風又は馬の蹄の爲めに砂の煙の

すな

風又は馬の蹄の爲めに砂の煙の

すな

風又は馬の蹄の爲めに砂の煙の

すな

風又は馬の蹄の爲めに砂の煙の

すな

風又は馬の蹄の爲めに砂の煙の



如く立つもの。

すなご

砂子(名) 「一」砂。「二」金銀粉を不規則に撒き

散らしたるもの。

すなごころん

少吏(名) 太政官の官名。せうし。……し又

はさくわんを見よ。

すなすり

砂摺(名) 魚類の下腹。

すら

修羅(名) しゅらは同じ。(雅)

すら

でも。●でもやはり。○順集「春日すら長

居しつるさ妹間は、見せんと折れる花な散

らしそ」(又)「すらに。○榮花「我すらに

思ひこをやれ春日野の雪間をいかで田鶴の

分くらん」

すらり

(副) 「一」すら／＼。「二」身の長の高き有様。

……△(動)「すらりこ。

すらすら

(副) 少も障りのなき有様。△(副)「すらす

らこ。

すむ

住(自動四段) 「一」居所を定むる。●居住する。

「二」男が思ふ女の家に通ひて一つに暮ら

す。●女のもさに通ふ。○後撰「公頼朝臣の

娘に忍びて住み侍りけるに」伊勢「男住ま

すなりにけり」

すむ

澄(自動四段) 清くなる。●さやかになる。●明

らかになる。

すむ

(自動四段) くすむ。●じみである。○源氏「い

さあてにすみたるものゝなつかしき様をひ

てし

すむ

濟(自動四段) 事の終る。●完結する。

すん

寸(名) 「一」分の十倍。尺の十分一。「二」寸尺。

●寸法。

すん

順(名) じゅん。●順番。●順序。○紫日記「孟

のすんの來るを大將におち給へど」

すんいん

寸陰(名) 一寸の光陰。●僅少の時間。

すんばく

寸白(名) すばくに同じ。

すんばうし

角帽子(名) 能装束

束の一つ。僧の着

る角の立ちたる頭

巾。(圖)

すんか

寸暇(名) 少しの間暇。

●僅のひま。

すんやうりう

春楊柳(名)

しゅんやうりうに同じ。

すんだん

寸斷(名) 細かく切り刻む事。●すだ／＼に



する事。△(動)一寸斷す。

すむつかり

(名) 食品の名。大豆を酢にて煮たるもの。

すんのまひ

巡舞(名) じゆんのまひに同じ。

すむやけし

(形。形狀言ク活) すみやけしに同じ。

すんぶん

寸分(副) 一寸一分程も。●少しも。(形)一寸分の。

すんが

寸毫(名) すこしばかり。

すんてつ

寸鐵(名) 小きき刃物。

すんざ

從者(名) すさに同じ。(雅)

すんし

寸志(名) 僅ばかりの志。●志を表はすしるし。

すんし

寸尺(名) 寸さ尺さ。●物尺にて度るべき長さ。

すんず

誦(他動サ變) じゆすに同じ。(雅)

すり

數(名) 「一」かず。「二」連。●天命。

すふ

吸(他動四段) 「一」息を内に引く。●息と共に物を口に入れる。「二」或物の力を以て他の物を引き付くる。●吸引する。

すう

据(他動下二段) すわらす。●置く。●動かぬやうに置く。

すうかく

數學(名) 數量を測る學科の總名。

すうたひ

素謡(名) 囃子も舞もなしに只謡ばかり謡ふ

事。

すうし

數詞(名) 數をあらはす詞。

すうず

誦(他動サ變) すんすに同じ。(雅)

すなふ

出納(名) しゆつたふに同じ。(宇治)

すのこ

簀子(名) 「一」簀に同じ。「二」簀を以て造りたる床。〔三〕椽側。

すのもの

酢物(名) 酢を掛けたる食物。

すく

透(自動四段) 「一」其物を通して向の物の見ゆる。●透明になる。「二」透間の出来る。●

すく

明間の出来る。「三」ひまになる。

すく

好(他動四段) このむ。●愛する。

すく

食(他動四段) 食ふ。○空穗「物一口さすいめ奉り給へばすき給ひつ」

すく

漚(他動四段) 紙、海苔などを製造する。

すく

助(他動下二段) たすくに同じ。

すく

鋤(他動四段) 「一」鋤にて地を廻り返す。「二」轉じて惡人などを除き去る。

すく

(他動四段) すき櫛にて髪を解かす。

すく

(他動四段) 綱を編む。

すく

好(自動四段) 「一」物すきをする。「二」色を好む。

すく

……(雅)

すぐ 直(名) 「一」正直。「二」直線。「三」直接。「四」即時。●ちぎ。……△(形)―すぐなる。(副)―

すぐに。

すぐ 過(自動下二段) 「一」通り行く。「二」時が立つ。

●経過する。●去る。「三」死ぬる。「四」越ゆる。

すぐ (他動下二段) 「一」緒を物に結び附くる。○古今

「都まで響きひよへる唐琴は波の緒すけて風で弾きける」「二」緒を穴の中に挿し込む。

○「下駄の緒をすぐ」

すぐひい 救(名) 「一」すぐふ事。●たすけ。「二」援兵。

●加勢。

すぐひいぬし 救主(名) 耶蘇基督。(基督教)

宿院(名) 旅人の宿るべき院。●旅館。(晴

蛉)

すぐひいぬみ (名) 魚をすぐふ網。

すぐろ (名) 末黒の意。○春の燒野の草の末が黒く燒

け焦がれ居る事。○拾玉集「霧こめてそこしも見えす粟津野のすぐろの薄いづくなるらん」

真直の路。○夫木「いかにせんすぐ

すぐろ 直路(名)

すぐろく 雙六(名) すころくに同じ。(雅)

すぐり 村主(名) 村長。●庄屋。

すぐる 勝(自動下二段) まさる。●越ゆる。

すぐる (他動四段) 撰び取る。●より抜く。

すぐよか 「一」すこやい。●健康。●丈夫。「二」心の強き事。●つんとしたる事。△(形)―すくよかなる。(副)―すくよかに。……(雅)

すぐえう 宿曜(名) 二十八宿と九曜との星の廻り合せ

によりて人の運命を占ふ術。

すぐえうし 宿曜師(名) 宿曜の占を業と爲す人。

すぐね 宿禰(名) 姓の一つ。

すぐなし 少(形。形状音ク活) 「一」多いらぬ。●少しの分量である。「二」小さし。

すぐむ (自動四段) 身が縮む。●恐れなどのために小さくなる。

すぐむ (他動下二段) すくましむる。

すぐむ 救(他動四段) 危難を免れしむる。●救助する。

すぐふ ●たすくる。●加勢する。

すぐふ (他動四段) 「一」杓子などにて水または水の中

すぐふ

すぐふ

にあるものを汲み取る。「二」すくふやうの形をする。

(名) 巢を作る。

すくふか
すくやか
すくよかに同じ。(形) すくやかなる。(副)

すくよかに。

(自動四段) すくむに同じ。

宿紙。熟紙(名) 紙屋紙の一種。薄黒き故薄墨紙

さといふ。繪旨なご書くに用ひたるもの。

すくしゆくし。

(名) 一説藻屑。一説刈り捨てたる草。一説藁

の袴。一説粗の皮。諸説ありて實物詳ならず。

す。○千載「難波女のすくも焚く火の下、

がれ上はつれなき我身なりけり」

(名) すくもを焚く火。(散木)

宿世(名) 「一」前世よりの約束事。「二」運。

縁。

過(他動四段) 過ぎさせる。

(副) 「一」すらく。●すんく。「二」元氣

に。●びんびん。……(又)……すくくも。

(形。形状言シク活) 艶ならぬ。●無風流な

る。●愛想のなき。●つんこしたる。○源

氏「東宮の御世心よせ異なる人なれば限りになんあめるとすくくしうの給ひつゝるに」

素鎗(名) 刃の眞直なる鎗。

すやり
すやつ (代) 人を卑しめ呼ぶ詞。●をやつ。●そいつ。

●きやつ。(源氏)

すやき
素焼(名) 陶器の一種。薬を掛けずに焼きたるもの。

住居(名) ちゆうきよん 住居。●住所。

すまひ
相撲。角力(名) 「一」二人立ち合ひて腕力の勝負を爲す術。「二」相撲をする人。●相撲取。

すまひい
「三」相撲の節會。

すまひどり
相撲取(名) 相撲を取るを業とする人。●力士。

すまひのせち
相撲節會(名) 諸國より力士を召し禁

中にて相撲を取らせ天覧あらせらるゝの公

事。七月廿八九の兩日行はれたるもの。

(名) 草の名。天門冬の古名。(和名抄)

すまん
數萬(數) 照も無き數。●無數。

すまふ
住(自動四段) 住む。

すまふ
住(自動四段) 「一」負けじと争ふ。●競争する。

すまふ
すまふ

すまご

●抵抗する。「二」相撲を取る。
須摩琴(名) 琴の一種。一筋の糸を掛けて弾くもの。●一絃琴。

すまし

(名) 「一」洗ひ清むる事。「二」物を洗ひ清めなごする下女。「三」すまし汁。

すましじる

澄汁(名) 料理の詞。味噌を入れざる汁。

すます

澄(他動四段)

澄むやうにする。

すます

清(他動四段)

洗ひ清むる。

すます

濟(他動四段)

爲し終る。

すけ

(名) 古代の官名。其の役所の次官。……役所に
よりて文字を異にする事左の如し。

副。(大。少)……神祇官の次官。

輔。(大。少)……省の次官。

亮。……職の次官。

弼。……察の次官。

弼。(大。少)……臺の次官。

佑。……檢非違使の次官。

介。……地方官の次官。

佐。……左右衛門府、左右近衛府の次官。

すけ

出家(名)

しゅけに同じ。(雅)
すくる事。又ば其人。●補助。●助手。

すけ

菅(名) 萱に似たる草の名。夏の頃刈りて簍笠など造るに用ふ。

すげがさ

菅笠(名) 菅を編みて造りたる笠。

すげだち

助太刀(名) 「一」敵討などの時敵を闘ふ太刀の加勢をする事。「二」轉じて總べて他人を助くる事。●助力。

すげなし

(形。形狀言ク活) あいそなし。●人づきわろし。○大和「親きゝつけて男をも女をもすげなくいみじういひて」

すげむ

(自動四段) 齒が抜けて口中の透く。○源氏「いさうすげみにたる口つき思ひやらるゝ聲つかひの」

すけが

助郷(名) 徳川時代の詞。大名の道中の人夫の不足なる時其宿驛の近郷より助に出づる農夫の稱。

すけて

助手(名) てつたひ。●助手。●補助。

すけき

透(名) すき。●透間。(萬葉)

すぶ

統。總(他動下二段) 取纏むる。●支配する。●統御する。●統轄する。

すこ

賤子(名) しづ。●賤の子。○小侍從集「山田も

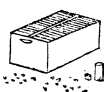
るすこが麻衣ひさへにて」

すころく

雙六(名)

「一」遊戲の名。二人相對して盤に向ひ代りくゝに采を振りて甲は白乙は黒の馬を采の目だけ進ませつゝ早く敵の領所へ行き着きたるを以て勝とする

もの。(圖)「二」遊戲の名。紙面を幾つにも仕切りて書をかき振り出しより始めて上り



(行き着く處)まで定め置き各々が目印とする數取を振り出しの處に置きて采を振り其數によりて早く上りの處に行き着きたるを勝とするもの。又其采の數により進まずして朱の目の指定する場所へ飛び行き進むものあり。之を飛び双六といふ。

すこく

(他動四段)

物を手に握りて扱くやうにする。

すこやか

健

健康。●壯健。●達者。●丈夫。(動)「すこやかなる。(副)「すこやかに。」

すこぶる

頗(副)

「一」少し。●少々。「二」餘程。●甚だ。

すこし

酒胡千(名)

しゆこしに同じ。

すこし

少(副)

すくなく。●ちと。●わづかに。(又)「すこしく。」

すこし

寝(形。形状言ク活)

し。●氣味わるし。

すこも

簀薦(名)

古へ食事する時機の下に敷きたるもの。雅亮裝束沙に曰く「其机の下に簀薦といひて簾のやうに編みて白きすしの絹の裏つけ廻りに白き縁さしたるが机の廣さなるを机毎の下に敷くなり」

すこもる

巢籠(自動四段)

巢の中に籠る。

すこす

過(他動四段)

すくすに同じ。

すそ

假髮(名)

髪の種類。古へ髪の上に覆ひて装ひたるもの。(和名抄)

すそ

末(名)

「一」本の反對。●端。●下。●終。●後。「二」干孫。●後裔。「三」短歌の下句。「四」禁中御神樂の時左右に列座する伶人の右の方の稱へ。又其右の方にて歌ふ曲。

すそむはな

末摘花(名)

べにばな。紅花の異名。

すそつくり

陶作(名)

陶器の製造人。

すそまぜ

据交(名)

魚味と精進物を一つに盛る事。

すそふろ

据風呂(名)

据ゑ置きて入浴するための風呂桶。

すそこ

末子(名)

一番終りの子。

すゑこ

据籠(名) 据を置く鳥籠。(能宣巢)

すゑさら

陶皿(名) 陶器の皿。(延喜式)

すゑひろ

末廣(名) 扇の異名。

すゑひろがり

末廣(名) すゑひろに同じ。

すゑもの

陶物(名) 陶器。●磁器。

すゑすゑ

末末(名) 「一」子孫の人々。「二」下々の人々。

すゑ

蒙手(名) 何物をも持たざる手。●から手。

すゑに

既(副) 「一」最早。「二」以前より。●さくに。

すゑがね

拾鐘(名) 時の鐘を打つ時。最初先づ注意の

すゑがな

拾假名(名) 送り假名に同じ。

すゑふね

拾舟(名) 誰も乗らずに捨ててある舟。

すゑこ

捨兒(名) 往來などに兒を捨て置く事。又は其

すゑこ

捨てられたる小兒。

すゑころも

捨衣(名) 脱ぎ捨てたる衣。

すゑびと

捨人(名) 世捨人。●出家。●僧。

すゑな

素襖(名) すあうに同じ。

すゑへ

酢和(名) 酢にて作りたる和物。●あへもの

すゑし

素足(名) 「一」はだし。「二」足袋を履かぬ足。

すゑ

(名) 壁を塗る時土に混する麻又は藁の細片。

すゑ

儒書(名) じゆしゑに同じ。(雅)

すゑ

從者(名) じゆうしゑに同じ。(雅)

すゑい

秀才(名) しうさいに同じ。(雅)

すゑむ

(自動四段) すさぶに同じ。

すゑむ

(他動下二段) 「一」進む。●荒る。○堀川「ひ

すゑむ

まもなく降りもすさめぬ五月雨につくまの

すゑむ

沼の水草波よる」「二」もてあそぶ。●賞翫

すゑむ

する。○古今「大あらしの森の下草老いぬ

すゑむ

れば駒もすさめず刈る人もなし」「三」嫌ふ。

すゑむ

●いやになる。○平家「常盤清盛にすさめ

すゑむ

られて」

すゑまし

(形。形状言シク活) 氣の進まぬ有様。●厭は

すゑふ

しく思はるゝ有様。●興が醒める。●もの

すゑふ

すこし。●恐ろし。

すゑふ

(自動上二段) 「一」進む。●荒る。●「二」なぐ

すゑふ

さみにする。●遊びにする。

すゑふ

洲崎(名) 洲にて出来たる崎。

すゑふ

(名) すさびに同じ。

すゑふ

(名) 「一」心の進み。「二」なぐさみ。●遊び。

すゑふ

……(雅)

すゑふ

主基。次基(名) 出基を見よ。

すゑふ

鋤。鋤(名) 地を頻り返すに用ふる農具。

すき

次(名) つぎ。

すき

好(名) 「一」好み。●嗜好。「二」物すき。●好事。

すき

透(名)

「一」物と物との少しの間。●透間。●ひま。「二」閑暇。「三」おこたり。●油斷。●慮。

すき

數寄(名)

風流。●風雅。

すき

杉。櫛(名)

木の名。葉は針の如く軸の周圍に着き材は眞直に生長して其木埋美しく柱其他諸種の器具に作るもの。

すぎはら

杉原(名)

紙の一種。奉書に似て薄さのもの。

すぎはし

杉箸(名)

箸の一種。杉の木にて造りたるもの。

すぎにかは

黄明膠(名)

膠の一種。透明なるもの。

すぎど

杉戸(名)

杉の材にて作れる戸。

すぎとほ

透徹(自動四段)

物より透きて向の物の見ゆる。●透明である。

すぎなり

杉折(名)

杉にて造りたる折。

すぎあふ

透扇(名)

扇の一種。白き生絹にて張り透きて見ゆる様に造りたるもの。

すぎあふ

杉扇(名)

透扇の輦。

すぎはひ

生業(名)

世を過ごす手段。●なりはひ。

すぎわ

●生計。●活計。

すぎがまし

好業(名)

好色の所爲。

(形。形状言シク活)

「一」物すきらし。「二」色好みらし。

すきかけ

透影(名)

物より透き通りにて見ゆる影。

すぎやギョウ

修行(名)

しひぎやうに同じ。(雅)

すぎやキョウ

誦經(名)

「一」讀經に同じ。「二」誦經の僧に贈る布施物。○新古今「小式部内侍みまかりてのち常に持ちて侍りける手箱を誦經にせよとてよみ侍りける」

すぎやギョウ

修業者(名)

しゆぎやうじや。●山伏。

すぎたて

(雅)

杉立(名) 模様の名。杉の木の

立らたる形。(圖)

すぎむら

杉村(名)

杉の木の立ち並びたる所。

すぎふ

杉生(名)

杉の木の生ひたる所。

すぎぐるま

好車(名)

物すきを盡して作れる車。(狹衣)

すぎぐし

梳櫛(名)

櫛の一種。目の細いもの。



すきや

敬寄屋(名) 茶の湯を催すための室。

すきや

(名) 絹織物の名。生絹にて薄く織りたるもの。

すきま

透間(名) 「一」物と物との間の少し透きたる所。●ひま。●二間眼。●三油断。●空虚。

すきま

杉間(名) 杉の木の間。

すきま

好事(名) 好色。

すきま

好心(名) 好色の心。

すきま

透烏帽子(名) 揉烏帽子の一種。薄き絹にて頭の透くやうに作りたるもの。

すきま

鋤切(名) 筋違なりに切る事。

すきま

透見(名) 透間より見る事。●垣間見。

すきし

杉障子(名) 襖又は藪の類。

すきびたひ

透額(名) 冠の一種。額に月形を透かし其上に羅を張りたるもの。元服以後十六歳未満の人之を着す。

すきもの

好者(名) 「一」好事者。●二色好み。

すきすき

次々(名) つぎ／＼。△(形)―すき／＼の。

すきすきし

(副)―すき／＼に。

すきすきし

(形。形状言シク活) 「一」物すきがまし。

すきすきし

(二)好色がまし。

すきすきし

(自動下二段) 食物の腐敗して酸くなる。

すきすきし

(自動下二段) 食物の腐敗して酸くなる。

すめ

皇(名) すめらみこと。

すめらぎ

天皇(名) すめらぎに同じ。

すめらぎ

蘇冥慮(名) そめいろに同じ。一名須彌山。

すめらぎ

皇神(名) 神の尊稱。

すめらぎ

皇(名) すめらみこと。

すめらぎ

天皇(名) すめらぎの略。○すめらみこと。

すめらぎ

皇御軍(名) 皇軍。●官軍。

すめらぎ

素面(名) 「一」何も被はざる顔。●二酒に酔はざる時の顔。

すめらぎ

天皇(名) 天皇陛下。

すめらぎ

皇睦(名) 天皇の睦ましき御先祖。(祝詞式)

すめらぎ

(自動四段) うめく。

すめらぎ

炭(名) 木燃えて黒くなりたる處。又木を薪にして作れるもの。おこして熾火にするに用ふ。

すめらぎ

墨(名) 「一」硯に摺りて書畫をかくに用ふるもの。油煙を膠にて練り固めて造る。●二黒色。

すめらぎ

隅。角(名) 「一」物の入り込みたる奥の端。●二、さ。

すめらぎ

隅。角(名) 「一」物の入り込みたる奥の端。●二、さ。

すめらぎ

隅。角(名) 「一」物の入り込みたる奥の端。●二、さ。

すめらぎ

隅。角(名) 「一」物の入り込みたる奥の端。●二、さ。

すめらぎ

隅。角(名) 「一」物の入り込みたる奥の端。●二、さ。

すめらぎ

隅。角(名) 「一」物の入り込みたる奥の端。●二、さ。

すめらぎ

隅。角(名) 「一」物の入り込みたる奥の端。●二、さ。

すめらぎ

隅。角(名) 「一」物の入り込みたる奥の端。●二、さ。

すみ

須彌(名)

すみせん
須彌山の略。

すみいろ

墨色(名)

〔一〕墨の色。〔二〕其人の物を書き

すみばさみ

墨挾(名)

たる墨色によりて運命を占ふ術。

すみどり

炭取(名)

短くなりたる墨を摺る時挾みて

すみどりがみ

角取紙(名)

軍旗の一種。

すみちがへ

エ

隅違(名)

すぢかひに同じ。

すみか

住處(名)

住む場所。●住所。●居所。

すみがま

炭竈(名)

炭を焼きて製造する竈。

すみがき

炭掻(名)

炭を掻き寄する具。

すみがき

墨書(名)

墨繪。

すみれ

堇(名)

草の名。春の頃紫色の愛らしき花咲く

もの。

すみれいろ

堇色(名)

堇の花の如き色。濃紫。

すみそ

酢味噌(名)

酢に味噌を加へたる食品。

すみぞめ

墨染(名)

〔一〕黒く染むる事。〔二〕黒く染め

たる僧の衣。

すみぞめの

墨染の(枕)

夕夜の枕詞。墨の如く暗き時

ゆゑ。

すみつば

墨壺(名)

〔一〕工匠の具。墨繩に付くる墨を

入れ置くもの。〔二〕墨を摺り入れて貯へ置く壺。硯の代りに他行の時携へ行くなどに用ふ。

すみづか

墨柄(名)

墨挾の古名。

すみつく

(自動四段)

居所の定まる。●其家に落ち着

く。●永住する。

すみつき

墨付(名)

〔一〕墨の付き工合。〔二〕武家時代

將軍家より辭令などに押したる黒印。又は其黒印を押したる文書。

すみなは

墨繩(名)

工匠の具。墨を浸して材木の上に

墨の線を引くための糸。

すみながし

墨流(名)

墨又は繪具を水に流し紙を其上

に置いて寫し取りたる模様。短冊などに用ふ。

すみうち

墨打(名)

工匠の詞。墨繩を打つ事。

すみうかる

住浮(自動下二段)

〔一〕住み兼ねて他所へ

うかれ出づる。○續古今「都を住みうかれて野中の清水を過ぐて」〔二〕うかれ出で、他所に住む。○續後撰「園城寺に住みうかれける頃」



すみやか

速 はやき事。●迅速。(形)―すみやかなる。
(副)―すみやかに。

すみやく

速(自動四段) すみやかになる。●はやまる。

●あわつる。○拾遺「君をわが思ふ心は大原
やいつしかさのみすみやかれつ」

すみこむ

住込(自動四段) 雇人として其家に住む。

すみゑ

墨書(名) 墨のみにてかきたる書。

すみざし

墨差(名) 工匠の具。木の面に線を引くやう
に竹を割って作れるもの。

すみきりがく

隅切角(名) 四角形の各の隅を切り落し
たる形。

すみび

炭火(名) 炭をおこしたる火。

すみせん

須彌山(名) しゆみせんに同じ。(雅)

すみすり

(名) 硯の古名。(和名抄)

すみすりがめ

(名) 硯の水入。(和名抄)

すみずみ

隅隅(名) こゝかしこの隅。

すし

鮓。鮮飯(名) 食品の名。「一」古は酢漬の魚肉。

「二」今は酢を加へて魚肉又は野菜海菜乾物
など添へたる飯。

すし

酸(形。形状言ク活) 酢の様な味を感ずる。●酸
味を覺ゆる。

すじやじゅう

素性(名) 人の生れ。●血統の來歴。
衆生(名) しゆじゅうに同じ。(雅)

すじやじゅう

鮓鮓(名) 酢漬の鮓。(字治)

すしたたれ

素直垂(名) 直垂の袴の下に白大口を着ず
して直に直垂のみを着る事の稱へ。

すびつ

炭櫃(名) 床に切りおろしたる火鉢。●圍爐裏。

すびき

素引(名) 弓術の詞。稽古の爲に矢を番へすに
弓を引く事。

すも

(自動) 住むの轉。(萬葉東歌)

すもり

蟻(名) 巢守の意。○孵化せずして巢に残り居
る卵。

すもりご

蟻子(名) すもりの中にある鳥の子。

すまふり

相撲。角力(名) すまひに同じ。

すまふどり

相撲取(名) すまひざりに同じ。

すも

李(名) 木の名。花は桃に似て白く實は半は桃
の如く半は梅の如く味酸きもの。

すす

煤(名) 焚火の上に溜まる黒きもの。

すす

篠簞(名) 竹の小さきもの。●簞。

すす

錫(名) 「一」金屬の名。鉛に似てやゝ色の白く光
澤あるもの。「二」錫製の徳利。○「神酒錫」

すす

鈴(名) 金屬製の鳴り物の名。中を空虚にして小

さき玉を入れ振り動かして鳴らすもの。

誦(他動サ變) じゆすに同じ。(雅)

すず

數珠(名) 佛を拜む時手に持ちて摺り鳴らす具。

木櫛子の實なごを緒に繋ぎ集めて輪にしたもの。●じゆす。

すすいろ

煤色(名) 黄を帯びたる薄墨色。

すすろ

「一」思はずの意。●覺えずの意。●うつかりの意。

(形) すゐるなる。○源氏「すゐるなる人も

處がら物あはれなり」(副) すゐるに。「二」むつみにの意。●漫にの意。(形) すゐるな

る。(副) すゐるに。○源氏「いみじく泣くを見給ふもすゐるにかなし」。

すすろほりし

(形。形狀言シク活) すゐるなる有様。(雅)

すすろがまし

(形。形狀言シク活) すゐるなる有様。

(雅)

すすろぐ

(自動四段) すゐるに進む。(雅)

すすろぶ

(自動上二段) すすろである。●思はずであ

る。

すすろこじ

(名) わけもなき話。●漫言。

すすろありき

(名) 散歩。●漫步。

すすばな

漢(名) 鼻より出づる液。●鼻水。

すすばらひ

煤拂(名) すいはきに同じ。

すすばむ

(自動四段) 煤の爲に汚る。●すすける。

すすばき

煤掃(名) 年の暮にする家の中の大掃除。●

煤拂。

すすどし

(形。形狀言ク活) 疾し。●早し。○宇治「す

すすり

硯(名) 水を入れ墨を摺りて書畫をかくに用ふ

る器。石又は瓦にて造る。

すすりいし

硯石(名) 「一」硯に造る石材。「二」石造の

硯。

すすりばこ

硯箱(名) 硯を入れて机の上に置く箱。

すすりがめ

硯瓶(名) 硯に水を注ぎ込む瓶。水入れ。

すすりなぐ

硯泣(自動四段) 一息づゝ聲を立てゝは又

呑みて泣く。

すすりなき

硯泣(名) すすりなく事。

すすりぶた

硯蓋(名) 「一」硯の蓋。「二」古は硯の蓋を

物の臺に用ひたるより起りて。○食器の名。廣蓋の類の上品なるもの。口取肴など盛るに用ふ。

すすりきり

硯切(名) 硯を造る工人。

すする

吸(自動四段) 汁の類を口に吸ひ入る。

すすか

鈴鹿(名) 古代和琴の名。

すすかかは

鈴之河(名) 催馬樂の曲名。

すすかけ

篠懸(名) 山伏の衣の上に肩より懸くるもの。餓頭に似たる菊綴を附く。(圖)

すすかぜ

涼風(名) 涼しき風。

すすたま

數珠玉(名) 「一」數珠の玉。「二」草の名。水邊に生じて秋の頃數珠玉の如き紫色の實を結ぶもの。

すすたけ

煤竹(名) 煤の爲めに赤黒き色の附きたる竹。

すすぞめ

煤染(名) 煤色に染めたるもの。

すすな

鈴菜(名) 春の七草の一つ。燕かばちの一名。

すすなり

鈴生(名) 菓物の澤山一つに集まり生りたるを云ふ。其形が神樂鈴に似たる故の名。

すすむ

進(自動四段) 「一」前へ行く。「二」すすむ。「三」進歩する。●上達する。

すすむ

(他動下二段) 「一」進進ましむ。「二」(勸)誘



すすむ

涼(自動四段) 涼しさを身に受くる。

すすむし

鈴虫(名) 秋鳴く虫の名。ちんちろりんこ鳴くもの。

すすのそう

鈴奏(名) 古へ行幸の時に風簾の進む事を知らする爲め鈴を振り鳴らす事あり。之を奏聞するの式を云ふ。

すすのみこ

(名) 猿の異名。

すすく

煤(自動下二段) 煤に汚る。●煤だらけになる。

すすぐ

嗽(他動四段) 口中を洗ふ。●うがひをする。

すすぐ

滌。濯(他動四段) 水にて洗ひ清むる。●洗濯する。

すすぶ

(自動上二段) すすける。●すすばむ。

すすぶね

鈴舟(名) 鈴を附け飾りたる舟。○夫木「鈴舟」を寄する音にやさわぐらん須磨の上野にきくすなくなり」

すすき

薄。芒(名) 草の名。萱の類にして秋の頃獸の尾に似て白く又は赤き穂の出づるもの。

すすき

鯉(名)

魚の名。鱗細かくして口大きく味淡泊なるもの。海又は大河に産す。

すすきはぎのや

薄矧の矢(名)

矢の一種。薄を抜きて假に造りたる矢。○曾我「竹の小弓すすきはぎの矢をとりそへて」

すすめ

勸(名)

「一」勸進。「二」信仰を勵ますためにする話。(基督教)

すすめ

雀(名)

小鳥の名。人家近く住みて穀物小虫なごを食ひ夜明け頃盛に軒端などに來て鳴くもの。

すすめいろとき

雀色時(名)

夕暮。●薄暮。●黄昏。

すすめゆみ

雀弓(名)

雀を射る小弓。

すすみ

進(名)

進歩。●進行。

すすみ

納涼(名)

すすむ事。

すすみだい

涼臺(名)

涼む時に腰を掛くる爲めの臺。

すすし

生絹(名)

織物の名。練らぬ絹。

すすし

涼(形。形狀言シク活)

「一」暑き時に冷やかさ

すすしろ

鈴代(名)

春の七草の一つ。大根の異名。

すすしむ

(自動四段)

神慮を慰むる。

すすしきみち

涼しき道(名)

極樂世界。●西方淨土。

(源氏)